

最澄 サイチョウ 767～822

平安初期の日本天台宗の開祖。根本大師、山家大師、叡山大師とも呼ばれ、伝教大師の謚号(しごう)も賜わる。神護景雲元(767)年、近江国(滋賀県)の古市郷(比叡山麓)で生誕。12歳で近江国分寺に弟子入りし、出家得度して最澄と名乗った。延暦4(785)年19歳の時に東大寺で受戒したが満足できず、比叡山にのぼって草庵(後の一乗止観院)を構え、天台の經典を研究した。

桓武天皇の信任を受け、延暦23(804)年38歳の時、遣唐使と共に入唐、道邃(どうすい)らに学び翌年帰国、唐で学んだ円(天台の教理)・密・禅・戒律の四つを統一して日本天台宗を開き、国家の宗教として公認された。最澄は法華経を教義とし、全ての仏教は大乗の悟りに至るためのもので、小乗はより高い立場に導くための方便にすぎず、したがって全ての人は悟れるという一乗思想(天台法華一乗)を展開し、その後の鎌倉新仏教の開祖たちにも大きな影響を与えた。

Great Books 45 山家学生式(さんけがくしょうしき)

「山家学生式」とは、天台宗(山家)の学行をなす者の規則のこと。弘仁9(818)年に上奏した六条より成る「天台法華宗年分学生式」(通称「六条式」)、「勸奨天台宗年分学生式」(通称「八条式」)、翌年に奏上した「天台法華宗年分度者回小向大式」(通称「四条式」)の三つを総称したものである。

最澄が「山家学生式」を著し、嵯峨天皇に上奏した最大の目的は、大乗戒壇の独立である。当時、僧侶になるには具足戒を受ける必要があったが、戒律を受ける戒壇は全国に三カ所(奈良東大寺、下野の薬師寺、筑紫の観世音寺)しかなかった。最澄は「六条式」の中で、新たに比叡山に戒壇を設け、そこで天台宗の年分度者(各宗派割当ての国家給費学生僧)を大乗の戒律で受戒できるよう求めた。

「六条式」には、受戒した僧を12年間比叡山から一步も出さずに修行させ、一条思想に基づく純粋な大乗の出家を養成することも記されている。最澄はこの修行の結果を見て、学問にも実践にも優れた者を国の宝として比叡山に留め最上席の者とし、学問のみに優れた者は地方の国師に、実践のみに優れた者は国の働きをなす者(実行者)として用いようとした。こうすれば、道を求める人は世の中に相次いであらわれ、君子の道は永久に絶えず、国家は固く守られ、仏の種も絶えない。これが「山家学生式(六条式)」の趣旨である。

空海 クウカイ 774～835

平安初期の真言宗の開祖。遍照金剛(へんじょうこんごう)、高野大師、弘法大師とも呼ばれ俗に「お大師さま」の呼び名で親しまれる。宝亀5(774)年、讃岐国屏風浦(香川県善通寺市)の豪族佐伯氏の子として生まれる。15歳で上京し大学の明経科に入学したが仏門に帰し、一沙門から「虚空蔵求聞持法」を聞き、官吏の道を捨てて放浪の僧として四国の霊地で修行した。804年最澄らと共に入唐し、青竜寺の恵果(けいか)からインド伝来の密教の奥義を伝授された。帰国後高野山寺に住し、816年高野山に金剛峯寺を開き、次いで823年に京都の東寺(教王護国寺)を与えられて真言密教を広めた。

空海は日常の人間の言葉を廃し、大日如来の言葉すなわち真言を直接書き、身(体)・口(言葉)・意(心)のすべにおいて一体化することで、現世における成仏(即身成仏)が可能となると説いた。また漢詩文・書道(三筆の一人)においてもすぐれ、文化事業、社会事業にも大きく貢献した。

Great Books 46 三教指帰(さんこういき)

延暦16(797)年、24歳の作と伝えられる空海の処女作で、日本人の手になる代表的な宗教概論であるとともに日本初の思想批判書でもある。若き日の空海が、儒・道・仏三教のうち仏教を選ぶに至った理由を戯曲風に述べた3巻からなる著作であり、出家前の空海の心理的葛藤を伝える名著である。

本書は、主人役の兎角公の家を舞台にして、儒者亀毛先生(生活の中に道徳的規準を示す儒教の立場)、道教の虚亡隠士(不老長生の仙術を説く道教の立場)、仏教の仮名乞児(修行僧で空海の自画像といわれる)を客として配し、蛭牙公子(無道徳的立場)という大学をやめた非行学生に、主人公の兎角公がなんとか論じてほしいと3人に頼む趣向である。

空海は登場人物の言葉を借りて、儒・道・仏三教それぞれの長所・短所を挙げ、その価値を認めながらも儒教の道徳的な生も道教の生天による宗教的な生も「無常」ということを解説し得ないとし、最終的に仏教を選ぶ根拠は、仏教が無常なる生死輪廻からの解脱を解くからであると述べた。

◆ *Great Books* 文献案内

(最澄)

- 📖 原典日本仏教の思想 2 最澄 / 安藤俊雄, 園田香融(校注)
岩波書店 1991年刊 515p <182.1Z/4/2> 資料番号 20358156
- 📖 日本の名著 3 最澄・空海 / 福永光司(編)
中央公論社 1977年刊 495p <081.6/34/3> 資料番号 12784997
*最澄の「山家学生式(現代語訳)」および空海の「三教指帰(現代語訳)」所収。
- 📖 日本思想大系 4 最澄 / 安藤俊雄, 園田香融(校注)
岩波書店 1974年刊 515p <081.6/28/4> 資料番号 10149839

(空海)

- 📖 弘法大師空海全集 第6巻 / 弘法大師空海全集編輯委員会(編)
筑摩書房 1984年刊 808p <188.5/123/6> 資料番号 10282598
- 📖 渡辺照宏著作集 第8巻 仏教聖典四 / 渡辺照宏(著)
筑摩書房 1982年刊 256p <180.8/29/8> 資料番号 10268399
*空海の「三教指帰(現代語訳)」所収。
- 📖 三教指帰(岩波文庫) / 加藤精神(訳注)
岩波書店 1935年刊 140p <188/7> 資料番号 12252318

◆ 理解を深めるために 参考文献案内

(最澄)

- 📖 最澄と空海 / 佐伯有清(著)
吉川弘文館 1998年刊 339p <188.42GG/8> 資料番号 21000815
- 📖 徳一と最澄(中公新書) / 高橋富雄(著)
中央公論社 1990年刊 196p <188.21/2> 資料番号 20206827
- 📖 最澄(人物叢書 新装版) / 田村晃祐(著)
吉川弘文館 1988年刊 274p <188.4/48> 資料番号 12321568
- 📖 最澄のことば / 田村晃祐(著)
雄山閣出版 1985年刊 221p <188.4/40> 資料番号 12321527
- 📖 最澄辞典 / 田村晃祐(編)
東京堂出版 1979年刊 315p <188.4/26> 常置(相談室) 資料番号 10202448

(空海)

- 📖 空海入門(ちくま新書) / 竹内信夫(著)
筑摩書房 1997年刊 238p <188.52FF/15> 資料番号 20934642
- 📖 弘法大師空海伝 / 加藤精一(著)
春秋社 1989年刊 273p <188.5/172> 資料番号 20164109
- 📖 空海とその美術 / 佐和隆研(著)
朝日新聞社 1984年刊 235p <702.13/64> 資料番号 12629218
- 📖 弘法大師空海全集 全8巻 / 弘法大師空海全集編輯委員会(編)
筑摩書房 1983~85年刊 <188.5/123/1~8>
- 📖 書聖空海(法蔵選書) / 中田勇次郎(著)
法蔵館 1982年刊 223p <728.02/28> 資料番号 12644332
- 📖 空海辞典 / 金岡秀友(著)
東京堂出版 1979年刊 266p <188.5/62> 常置(相談室) 資料番号 10281491
- 📖 弘法大師全集 全8巻 / 密教文化研究所(編)
同朋社 1978年刊 <188.5/60/0~7>